

ISSN 0919-4657

KONC

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

**関西
自然保護機構
会誌**

31巻1号(通算57号)

シンポジウム特集Ⅰ かんさい自然フェスタ2008



2009年6月
関西自然保護機構

表紙の言葉

海と森と人をつなぐ祭事

写真・文 前迫 ゆり

海の生態系にとって森が重要な役割を果たすことをひろく印象づけたのは、気仙沼湾に注ぐ大川上流の山に植樹した漁師の方の「森は海の恋人」というキャッチフレーズかもしれない。表紙の写真は、「雄島まいり」のために京都府冠島に集った漁船と沓島に繁殖するウミネコの飛来である（2009年6月1日撮影）。漁民による信仰が今に伝わる「雄島まいり」は、海と森と人をつなぐ海洋文化ともいえる。

若狭湾に浮かぶ冠島（別名 雄島）は、オオミズナギドリ繁殖地として国の天然記念物に指定されている。この島は照葉樹林に被われ、魚付林として特別保護区にも指定されている。アサギマダラやさまざまな野鳥の中継点でもあり、魅力的な島である。毎年6月1日になると、大浦半島の野原地区、小橋地区および三浜地区の漁船はマダケにつけた大漁旗をなびかせ、太鼓と笛を奏でながら、豊漁と海上安全を祈願するために冠島の老人嶋（おいとじま）神社に集う。

神社の丸子船や狛犬は古く、江戸時代のもものとされる。漁師さんたちは、もってきた鯛や酒を神前に奉納し、狛犬にも清酒をかけて祈りと感謝をあらわす。老人嶋神社の神様は女の神様といわれているため、漁師の奥さんたちは祭事には参加しない（神様がやきもちをやかないように・・・という言い伝えらしい）。冠島に向かう船に向かって家々から手を振る地区の人々の姿がなんともいい。

数十年前から照葉樹林の調査で何度も訪れている島であるが、今年は御献酒を抱えて三浜から船に乗せていただいた。祈祷ののち、冠島の浜には人々が集い、直会（なおらい）がはじまった。いつもお世話になっている船長さんが新鮮なアワビと鯛のお造り、カメノテが入った味噌汁を振る舞ってくださった。豊かな森、豊かな海、そして豊かな食の恵みに感謝し、まさに、海と森と人がつながっていると感じた瞬間であった。

関西自然保護機構（KONC：Kansai Organization for Nature Conservation）

KONCは自然環境保護にかかわる人たちや関心を持つ人たちを幅広く組織して、自然環境保全に関する分野での研究を結集し、その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして、1978年に創立されました。

KONCはその活動の成果と、会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて、近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザー・ボティ（助言勧告機関）として、社会の要請にこたえることを企画しています。

現在、次のような活動をしています。

1. 基礎研究の実施
2. シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3. 現地見学会の開催
4. 研究助成金の交付
5. 会誌・連絡紙の発行
6. 自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7. 自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8. 国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は、個人会員・維持会員の会費により、まかなわれています。